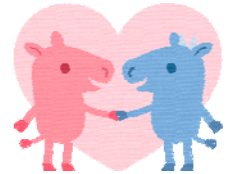


# EHIME ROUSAI HOSPITAL KANKOBU NEWS NURSE LETTER

Month

# 2



## 緩和ケア研修

北6病棟 林 美和子

平成19年1月27日に緩和ケアの院内研修がありました。今回は三豊総合病院緩和ケア認定看護師の佐藤さんに講演をしていただきました。参加して、緩和ケアに興味を持たれた方も多いのではないのでしょうか？緩和ケアをする上では患者を「病気を持った人間」としてとらえる全人的視点が重要であると言われていましたが、日頃のケアはどうだろう、と自分を振り返ってみると、「患者の病気」に視点があるのではと反省しました。身体的・精神的・社会的・スピリチュアルペイン（全人的苦痛）に視点を持ち、QOLの改善のためのアプローチが出来るように、日々のケアに取り組んでいきたいと思えます。



## 医療安全 相互チェック

### 誤認防止に向けて 医療安全管理者 河村寿子の熱い思い・・・

労災病院間における医療安全相互チェックは平成14年度より北陸3労災病院（燕・新潟・富山）で実施されたのが初めて、機構内外から評価され、平成18年度から全国の労災病院34施設で実施されるようになりました。当院は香川と中国の3施設間で相互チェックを実施しており、10月に当院は香川労災を訪問しました。そして今回、1月28日に中国労災病院から副院長（医療安全推進委員長）、看護副部長（医療安全管理者）、放射線技師長、医事課長の4名が当院に来られて、医事課、レントゲン、検査室、薬剤部、手術室、病棟などほぼ全ての部署のラウンドを行いました。当日の講評でいただいた印象的な言葉を紹介します。「医療事故は避けて通れない。でも、医療過誤はあってはならない。」「マニュアルは患者を守るもの。そして、医療者自身を守るもの。マニュアルは守らないといけませんが、守りやすいマニュアルを作る、納得のいくものを作るのが安全の近道だと思う。それを作るのが我々（医療安全推進委員会）の仕事だと思っている。」当院は、2回目の機能評価受審に向けて準備をはじめています。マニュアルを見直す良い機会です。実践に即したマニュアルにする為には、日頃からマニュアルを活用して改正を重ねなければなりません。皆さん、後輩に指導する時や「？」と思うことがあったら、先ず**マニュアル**に戻ってみましょう。ポロボロになるくらい、活用できる**マニュアル**にしていきましょう！**それが、安全への近道だ！**



## メディエーション研修

南4病棟師長補佐

神野 結花

『医療機関内での初期対応の重要性について』のテーマで「メディエーター・マインドを基にした傾聴の姿勢、日々の対応の重要性とメディエーションの必要性について周知する」を目的とし、講師に日本医療メディエーター協会四国支部長今川修一郎先生とチームみかんをお迎えし、研修会が開催されました。院内外から総勢127名の参加があり、関心の高さが伺えます。医療メディエーションとは患者と医療者が向き合う場を作り、当事者同士の対話を促進するプロセスです。メディエーター・マインドとは傾聴し相手に寄り添い共感を表明、対話促進させることです。医療メディエーションでの初期直接対応は医療現場での全ての医療者が直面し、そこでの対話が後々のトラブルに発展するか否かの大きな鍵を握ります。研修では、実際に「ある！ある！」と思う場面のロールプレイがあり、メディエーターの大切さがよくわかりました。

メディエーター登場となる前に“いつでもどこでもメディエーターマインド”！！



つばき・・・

FEB.2009



夢と一緒になら  
どっちに行くのも